

# HopStepJump ③

## 授業づくり②

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

～ 道徳の授業づくり・道徳の時間について ～

第5回初任者研修は、豊能町立東ときわ台小学校の龍神美和先生から、道徳の授業づくりを柱に演習を交えご講義いただきました。講義の前半では、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の意味や読み物教材の分析の方法について、後半には前半で学んだことを基に、実際に教材分析するワークに取り組むなど、具体的な内容についてお話いただきました。

講義の中では、数多くの実践事例、また道徳の授業に限らず、他の教科の授業や学級づくりを進めていく上で大切にされていることなど、龍神先生の思いや願いも含めて話してくださいました。

### ～振り返りシートより～

道徳は他の教科や学校生活と関連があり、「特別の教科」となっている意味を改めて理解しました。また、道徳は学級目標やどんな集団を作りたいかなど、学級経営をする上で何を大切にするかが土台となるため、自分の中でしっかりとイメージを持ち、今の学級の様子を振り返っていかなければいけないと感じました。

何かが起きてから道徳で取り組むのではなく、起きる前に取り組むという話が印象に残っています。そのためには、クラスの様子をよく観察する力が大切だと思います。子どもたちの様子を見ながら、いろんな教材に取り組むのか考えなければいけないと感じます。

読み物を使った道徳の授業では、教材でのできごとを確認する時間が多くなってしまうことがありました。見える部分よりも見えない部分を子どもたちと考えていかなければいけないことがわかりました。

まだ道徳の授業に自信が持てず、どうしても自分の言葉でまとめてしまったり、誘導的な発問をしてしまったりすることがありますが、道徳の授業をするにあたって、その時間のめあてやねらいを準備し、意識しながら展開することはもちろん、子どもたち自身がそれに向かっていけるような工夫をしないとけないと感じました。

そのためには、子どもたちの中からいろんな見方や考え方が出て、それが子どもたちの記憶に残るような授業づくり、そのクラスの状況や子どもの特性にあった問いかけや教材づくりが必要だと思います。

一人ひとりがしっかりと参加できたという実感が得られ、納得できたと思える道徳の授業をめざして、日頃からクラスの実態を把握し、授業で使えるアイデアを集め、準備していきたいと思っています。

今回の講義を受けて、道徳の授業に決まった答えは必要ないということを改めて感じることができました。私はついつい、道徳の授業を考えると、「子どもたちからこの言葉が出てきてほしいな。」と考え、実際に授業をするときに、子どもたちの意見を少しずつその言葉に寄せていってしまうという失敗をしてしていました。教師が求める言葉を子どもたちから出させるのではなく、子どもにいかにかそのねらいについて考えたいと思わせるかの過程を大切に、子どもなりの答えをたくさん拾って、広めて、受け止めたいと思いました。そのために、教材をよく読み、ねらいを明確にし、子どもたちの反応を具体的に予想しながら授業づくりをしていきたいです。

今回のワークを通して、道徳の授業で考えさせたいことを見つけるためには、まず自分が教材をよく読まなければいけないと思いました。道徳教材を分析する際に指導書をまず見るのではなく、自分で教材を読んでみて、その教材から何を感じ取るのか、何が学べるかを考えていくことは大事だと思います。実際、自分のこれまでの指導書通りの道徳の授業を振り返ってみると、子どもたちの振り返りで難しいという意見やよくわからなかったという意見が多かったので、自分が「教材を用いて伝えたいこと」を中心に授業を組み立てていこうと思えました。

道徳の授業づくりでは、子どもたちが考えたい、言ってみたい、聞いてみたいと思えるようなねらいを教師側が明確に設定するために、教材を深く分析し、子どもたちの考えや子どもたち同士の話し合いを大事にする授業づくりを行っていきたいです。

これまでの自分の授業を振り返ってみると、教材でのできごとや登場人物の姿を問いかける場面が多くあったように思いました。自分のクラスの実態を把握し、登場人物が考えたことや道徳的価値に対する考え方や感じ方・生き方を子どもたちが考えることのできるような発問を選ぶことの大切さを感じました。

今回の研修を受けて、「特別の教科 道徳」の時間の大切さを改めて理解することができました。子どもたちが表面的に納得するのではなく、なぜそのようにするのがいいのかを子ども自身が納得できるような授業づくりに取り組んでいきたいと感じました。

道徳の授業をしたからといってすぐに劇的な変化が起こるわけではありません。本当に少しずつ変化していくものです。だからこそ日々の道徳教育、その要としての週1時間の道徳の授業がとても大切になってきます。

龍神先生のお話しされる姿を拝見し、実際に目の前にいる子どもたちに届けるような言葉がけや初任者の私自身でも想像しやすい説明の仕方をされていたことがとても学びになりました。

初任者研では、現役の教員や教職経験のある方を講師としてお招きすることもあります。これまで歩いてこられた先輩方のお話は、講義の内容だけでなく、「先生」としてより成長させ視野を広げる多くの学びがあります。

## ～自己成長・確認シート～

自らを振り返り客観的に捉え直すことで、次へのステップにつながる新たな課題を見つけることができたでしょうか。

シートについては、豊能地区教職員人事協議会のホームページにもアップもしているので、必要に応じてご活用ください。

これまでの自分自身の実践を、数値やグラフを用いて視覚化してふりかえることで、今後の課題が明らかになった。この自己成長・確認シートを見て「数値が低いなあ・・・」と捉えるのではなく、一つの目安として捉えていきたい。改めて、これからも学び続けようと思えた。

自己成長確認シートを作成することで、これからの課題が分かりました。出来ていないことを少しずつ出来るように、分からないことや困ったこと等は周りの先生方に積極的に聞いていきたいと思えます。

自身が出来ていないと感じる点が、グラフになり視覚的にはっきりと見えることによって、具体的に行動していかなければいけないと感じました。日々の仕事の中で流さずにしっかりと目の前で気づき感じたことと向き合い一つ一つ解決しなければいけないと思いました。

まだまだ自分の理想とする教員像にはほど遠く、学ばなければならないことが多く存在していることを改めて感じました。しかし、できていないことばかりではなく、他の先生への相談や、振り返る時間を作るなど、少しずつ身につけている力もあるので、その点はさらに伸ばしていきたいです。